

ア. 学修時間・学修実態

ア-1 学修時間

1. 自己学修時間の学年比較

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。

学年別に集計した結果（令和元年5月調査）は以下のとおりです。

1年生～3年生の学修行動調査における授業以外の1日あたり自己学修時間（分）を示しています（図1）。

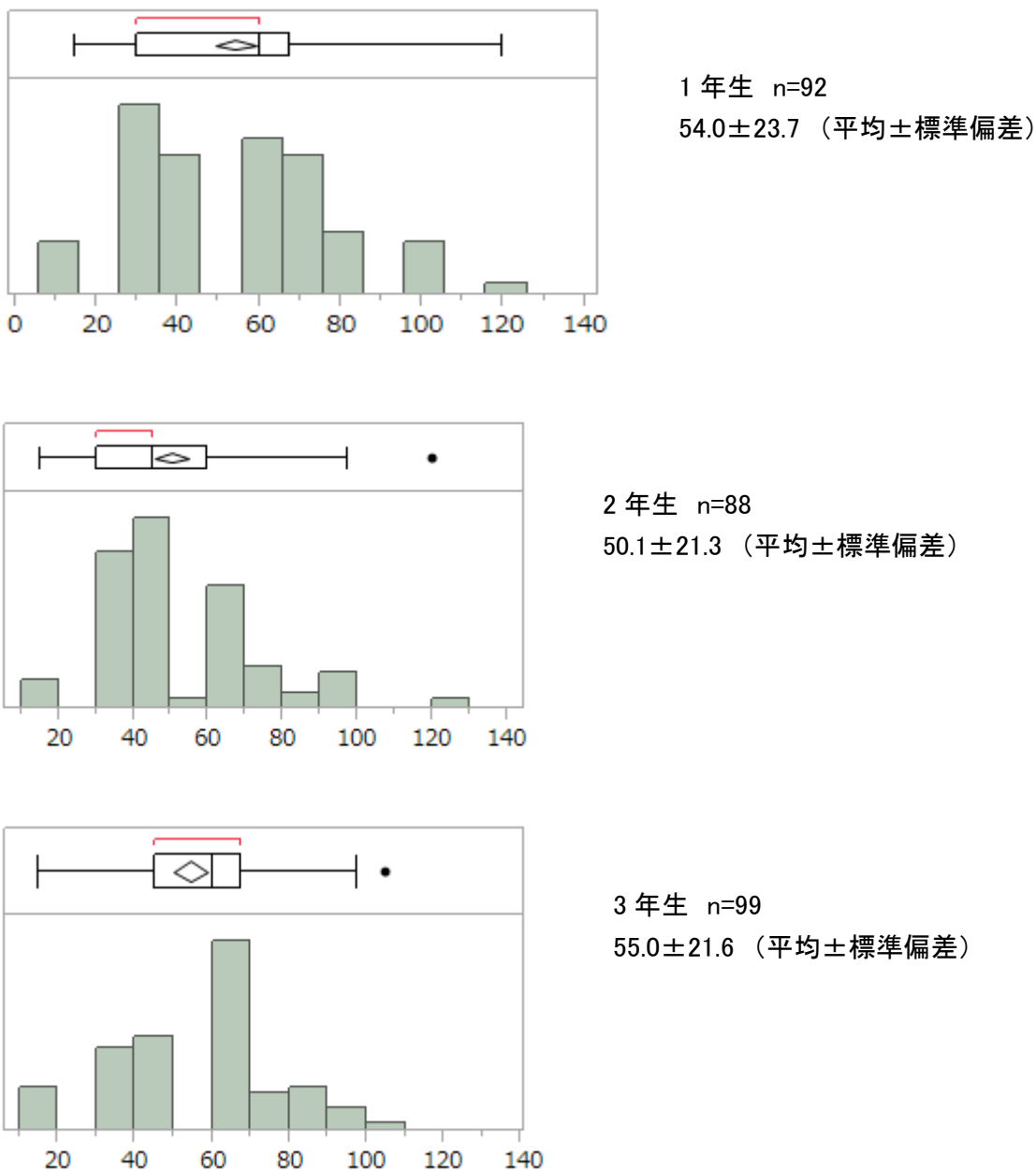


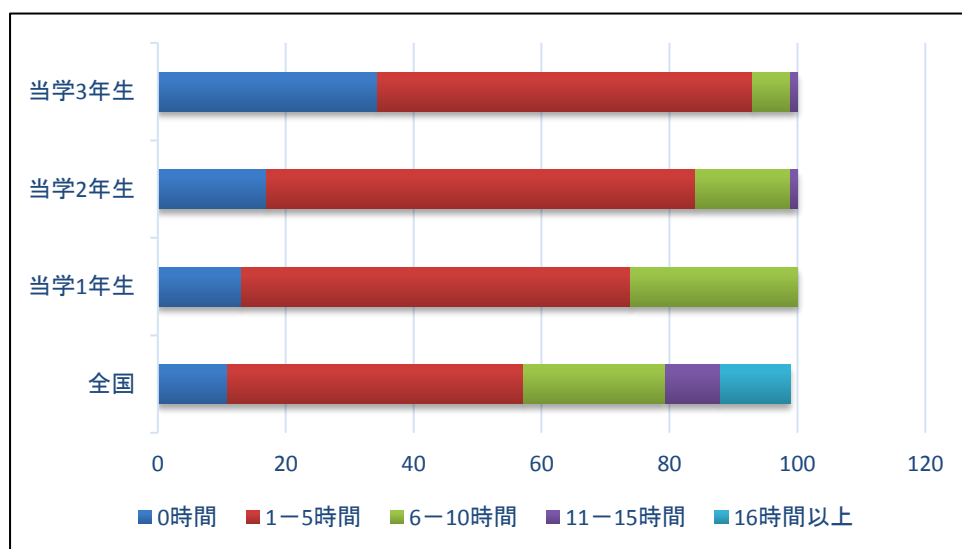
図1 2019年度 学年別1日あたり自己学修時間（分）

2018年度は1週間のうち1日あたりの平均学修時間を回答してもらいましたが、高く見積もられている可能性があります。そこで、2019年度は自己学修時間をより正確に算出するため、1週間のうち最

も長い学修時間と最も短い学修時間を回答してもらい、その平均を一日あたりの学修時間としました。すると、2018年度に比べ2019年度の方が1日あたりの学修時間は、1、2年生において短く、3年生では若干長い結果となりました。2014年に行われた全国調査に合わせて、1週間あたりの時間数に換算し、カテゴリー化してその割合を比較しました（図2）。1週間あたりの時間数については、1週間の平均学修日数を回答してもらい、1日あたりの学修時間に1週間の学修日数を乗じて算出しました。

全国調査における大学（昼間部）看護・保健専攻の「授業の予習復習時間」で最も多いのは1～5時間が46.2%で、当大学全体（1～3年生）も同様の結果（62.0%）でした。

1時間未満の学生は全国10.9%に対し、当大学全体（1～3年生）は21.3%でした。また、全国では、学年が上がるにつれ学修時間が増加することが報告されていますが、当学においては相反する結果となりました。自己学修時間の確保、特に高学年の学修態度の改善が望まれます。



全国は、国立教育政策研究所「大学生の学習実態に関する調査研究」2014年の結果による
ただし、全国調査はカテゴリーを選択する回答のため、階級の基準が完全に一致していない

図2 1週間あたり自己学修時間 全国との比較

2. 学生ピアサポートによる学修支援における学修時間の変化

自己学修時間が全国に比べ短いという結果を受けて、当大学では能動的な学修活動の活性化に取り組んでいます。学生のピアサポート機能を活用した学年横断型の学修支援活動「ともべん活動」を展開し、学年を超えた“共に勉強する”仲間づくりを基盤とし能動的学修態度の醸成を行っています。ともべん活動の参加者は99名（2019.9月現在）となり、そのうち4名を抽出し、学修時間の変化をみました。2018年は30分～60分/日（平均42.5分）でしたが、2019年は300～480分/日（平均360分）と大幅に増加していました。ともべん活動を通して、学年を超えて相互に学び合うことで学修意欲が高まり、学修時間の増加に繋がっていると考えられます。今後も、この活動を活性化させ、全学的な学修時間の増加と「勉強が楽しい！」と思える学修コミュニティが広がることを期待します。

アー2 留學率

平成30年度：該当なし（0%）

（平成29年度：該当なし（0%））

イ. 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。

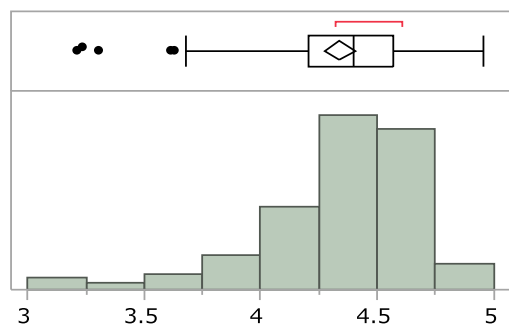
アンケートは12の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうか」に対する集計結果（平成30年度調査）を公表します。

平成29年度の総合評価結果と比較し、平均値（平成29年度実績：4.126）、中央値（平成29年度実績：4.21）とも良い結果となりました。

例年同様、各科目単位の結果は科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで、授業改善に繋げていきます。

『本講義に対する総合評価はどうか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（平成30年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



科目数	103
平均	4.34
標準偏差	0.33
中央値	4.40
範囲	3.21-4.06

ウ. 学修成果

ウー1 学内試験結果：GPA 分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。

本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。

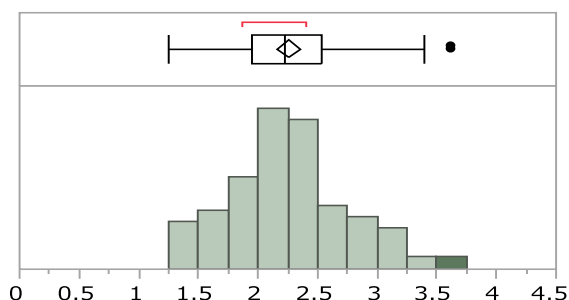
$$\langle GP = (\text{素点} - 55) \div 10 \rangle \quad \text{例：78点のGPは } (78 - 55) \div 10 = 2.3$$

以下に、平成30年度に各学年が履修した必修科目のGPAの分布状況を示します。

平成29年度の結果と比較すると、2年生に関しては中央値が上昇しましたが、他学年については、昨年度と同程度の結果となりました。（平成29年度中央値：学部1年2.2、学部2年2.0、学部3年2.4、学部4年2.6）

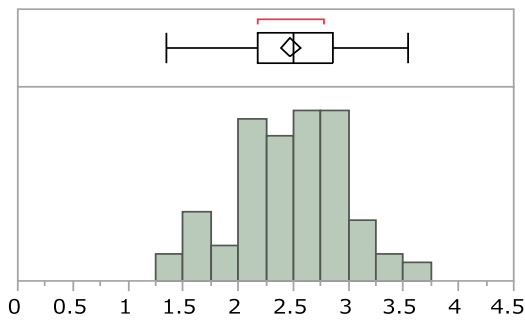
なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

看護学部1年（平成30年度）



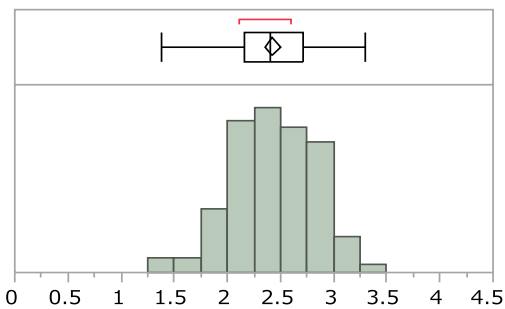
最大値	3.6
四分位点	2.5
中央値	2.2
四分位点	1.9
最小値	1.3

看護学部 2 年（平成 30 年度）



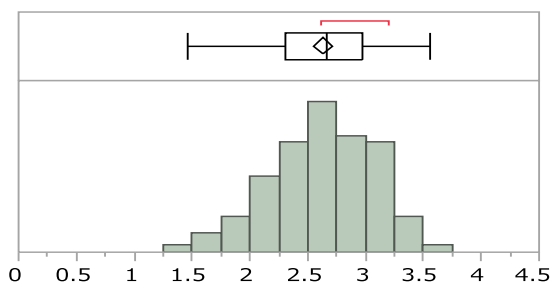
最大値	3.5
四分位点	2.9
中央値	2.5
四分位点	2.2
最小値	1.3

看護学部 3 年（平成 30 年度）



最大値	3.3
四分位点	2.7
中央値	2.4
四分位点	2.2
最小値	1.4

看護学部 4 年（平成 30 年度）



最大値	3.6
四分位点	3.0
中央値	2.7
四分位点	2.3
最小値	1.5

ウー 2 到達度自己評価

看護学部 4 年生に対し、自身の 4 年間の学びを振り返り、到達目標への達成度を自己評価するアンケートを実施しています。

平成 27 年度～平成 30 年度結果についてはグラフに示すとおりである。

平成 30 年度については、従前のマークシート用紙に直接記入する回答方式より office365 の Web アンケート機能を利用した回答方式へ変更し実施した。回答率は 70.2% で経年比較分の中では最も低い数値であった。

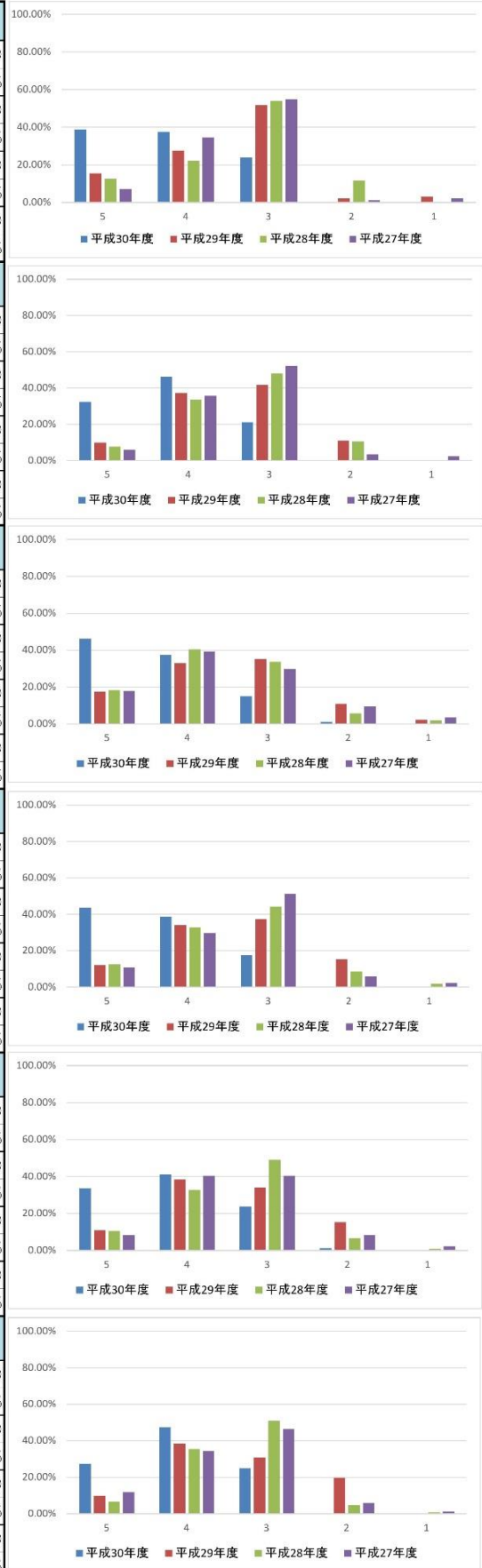
平成 30 年度アンケート結果の特徴として、ディプロマポリシー 11 項目全てにおいて「非常にあてはまる」「かなり当てはまる」と回答した者が 6 割以上であり、特に、3 項目目「人間の心理・行動への関心」や、4 項目目「ロイ適応看護モデルの理解」は 8 割以上の者が「非常に・かなり当てはまる」と回答していた。11 項目の内 3 項目について「あまり当てはまらない」と回答した学生が 1、2 名いたが、過年度よりも非常に少ない数となっており、「非常に当てはまる」と回答した数が過年度よりも増えている項目が多い結果となっている。

また、過年度は自由記載欄に殆どコメントは無かったが、平成 30 年度は約 4 割の学生が記載をしており、カトリックの愛の精神に基づく教育から人として大切なことを学んだ、といった内容が多く見受けられた。

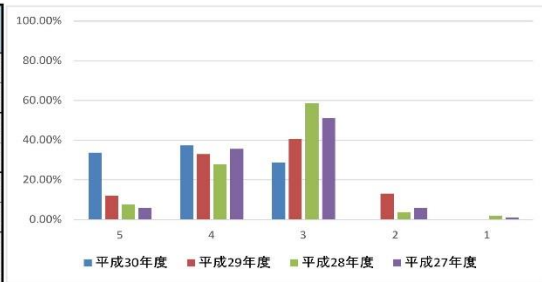
卒業時の到達目標達成度アンケート調査結果（回答率:平成30年度 70.2%、平成29年度 83.5%、平成28年度 92.0%、平成27年度 70.6%）

5:非常に当てはまる 4:かなり当てはまる 3:大体当てはまる
2:あまり当てはまらない 1:全く当てはまらない

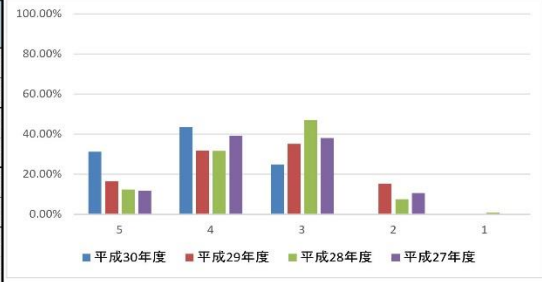
No.	到達目標	選択肢							
		回答年度	5	4	3	2	1	未記入	合計
1	「カトリックの愛の精神」に基づく、生命の価値、人間の尊厳について考え、保健医療福祉における全人的ケアの基本を身につけることができるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	31	30	19	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	14	25	47	2	3	0	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	23	56	12	0	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	6	29	46	1	2	0	84(件)
		合計	64	87	122	15	5	0	293(件)
2	医療技術の進歩に伴う人間の生存と派生する諸問題を学び、人間の尊厳を尊重した社会の在り方を考え、倫理の本質を探究することができるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	26	37	17	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	9	34	38	10	0	0	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	35	50	11	0	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	5	30	44	3	2	0	84(件)
		合計	48	106	149	24	2	0	329(件)
3	他者との相互作用、人間関係の諸側面について理解し、人間の心理や行動に感心を持つことができるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	37	30	12	1	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	16	30	32	10	2	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	19	42	35	6	2	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	15	33	25	8	3	0	84(件)
		合計	77	135	104	25	7	1	349(件)
4	ケアリングを基本概念とする理論であるロイ適応看護モデルを理解することができるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	35	31	14	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	31	34	14	0	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	34	46	9	2	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	9	25	43	5	2	0	84(件)
		合計	68	121	139	28	4	1	363(件)
5	人間の生命現象、疾病の原因や成り立ちを学び、健康の維持、増進に向けての医療の基礎を習得できるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	27	33	19	1	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	10	35	31	14	0	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	11	34	51	7	1	0	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	7	34	34	7	2	0	84(件)
		合計	55	136	135	29	3	1	360(件)
6	看護の概念、本質の理解を基盤に、小児期から老年期に至る発達各期の人間の健康の維持、回復、増進を阻害する要因を理解し、看護介入のための知識、技術を習得できるようになった。	平成30年度(2019.3月)卒業生	22	38	20	0	0	0	80(件)
		平成29年度(2018.3月)卒業生	9	35	28	18	0	1	91(件)
		平成28年度(2017.3月)卒業生	7	37	53	5	1	1	104(件)
		平成27年度(2016.3月)卒業生	10	29	39	5	1	0	84(件)
		合計	48	149	140	28	2	2	369(件)



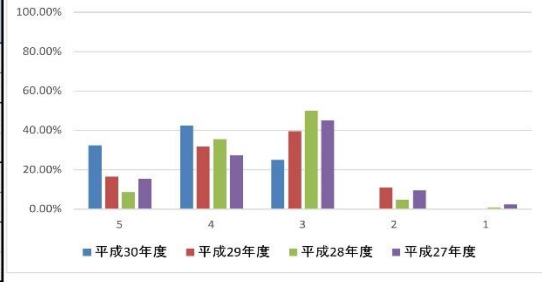
7	保健医療福祉のそれぞれを必要とする段階において、看護学の体系的学びを実践学習のなかに展開することができるようになった。	選択肢	5	4	3	2	1	未記入	合計
		回答年度							
		平成30年度(2019.3月)卒業生	27	30	23	0	0	0	80(件)
			33.75%	37.50%	28.75%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	11	30	37	12	0	1	91(件)
			12.09%	32.97%	40.66%	13.19%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	8	29	61	4	2	0	104(件)
			7.69%	27.88%	58.65%	3.85%	1.92%	0.00%	100.00%
		平成27年度(2016.3月)卒業生	5	30	43	5	1	0	84(件)
			5.95%	35.71%	51.19%	5.95%	1.19%	0.00%	100.00%



8	学習体験から課題を発見し、根拠ある看護実践について継続的に探求し学習していく能力を身につけることができるようになった。	選択肢	5	4	3	2	1	未記入	合計
		回答年度							
		平成30年度(2019.3月)卒業生	25	35	20	0	0	0	80(件)
			31.25%	43.75%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	32	14	0	1	91(件)
			16.48%	31.87%	35.16%	15.38%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	13	33	49	8	1	0	104(件)
			12.50%	31.73%	47.12%	7.69%	0.96%	0.00%	100.00%
		平成27年度(2016.3月)卒業生	10	33	32	9	0	0	84(件)
			11.90%	39.29%	38.10%	10.71%	0.00%	0.00%	100.00%



9	情報処理、危機管理、他の専門職種との協働を理解し、看護職の責務とともに医療安全管理の能力を身につけることができるようになった。	選択肢	5	4	3	2	1	未記入	合計
		回答年度							
		平成30年度(2019.3月)卒業生	26	34	20	0	0	0	80(件)
			32.50%	42.50%	25.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
		平成29年度(2018.3月)卒業生	15	29	36	10	0	1	91(件)
			16.48%	31.87%	39.56%	10.99%	0.00%	1.10%	100.00%
		平成28年度(2017.3月)卒業生	9	37	52	5	1	0	104(件)
			8.65%	35.58%	50.00%	4.81%	0.96%	0.00%	100.00%
		平成27年度(2016.3月)卒業生	13	23	38	8	2	0	84(件)
			15.48%	27.38%	45.24%	9.52%	2.38%	0.00%	100.00%



ウー3 資格取得等実績

本学看護学部は、看護師及び保健師（選択コース）の国家試験を受験します。

平成30年度卒業生の国家試験の結果は以下のとおりです。（助産師は助産学専攻として受験）

平成29年度卒業生結果と比較すると、助産師に関しては昨年度に引き続き100%の合格を達成しましたが、保健師（平成29年度卒業生100%）、看護師（平成29年度卒業生99.1%）に関しては、前年度を下回る結果となりました。

看護師に関しては、全国平均合格率の低下の影響も考えられますが、引き続き、国家試験対策委員会等を中心とした学生支援を行い合格率向上に努めていきます。

職 種	全国合格率(%) (新卒のみ/全体)	本 学				
		出願者	受験者	合格者	不合格者	合格率(%)
看護師	94.7/89.3	114	114	107	7	93.9
保健師	88.1/81.8	18	18	16	2	88.9
助産師	99.9/99.6	13	13	13	0	100.0

ウー4 学位（看護学）取得状況

平成30年度学位授与者：114名

（平成29年度学位授与者：109名）